
主要施策の令和6年度実施状況 及び令和7年度の方方向性

- 1 学校教育室 (P. 1)
- 2 保健体育課 (P. 2)
- 3 県立生涯学習推進センター (P. 3)
- 4 県立図書館 (P. 4)
- 5 県立博物館 (P. 5)
- 6 県立美術館 (P. 6)
- 7 県立青少年の家 (P. 7～9)
- 8 県立野外活動センター (P. 10)

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課

主要施策の令和6年度実施状況及び令和7年度の方向性

公所名 学校教育室

項 目	令和6年度実施状況 (成果と課題)	令和7年度の方向性等
グローバル人材の育成	英語力の向上、異文化理解の促進、学びに向かう姿勢の変容等、国際的視点の人材育成が推進された。引き続き本県における 地域の国際化に貢献できる担い手の育成 が必要。	海外からの観光客の増加等、国際交流人口の拡大に対応するグローバルな視点やコミュニケーション能力等を身に付けた 岩手と世界をつなぐ人材の育成 を推進する。
高校の魅力化	高校魅力化の全県展開により、県立高校と市町村等関係機関との協働体制の構築が進み、各校の魅力ある学校づくりが進んだ。今後は 構築された協働体制を持続的に運営 していく必要がある。	市町村による地域連携コーディネーターの配置や育成、活躍を支援し、県立高校と市町村等関係機関による 協働体制の円滑な運営の実現 を図る。
いわての復興教育の推進	復興教育の理念に基づき全ての公立学校が学校経営の基本方針や経営の重点に位置付けて取り組んでいる。震災の記憶がない児童生徒や教職員へ教訓を語り継ぐことが必要。	副読本や伝承施設、県立図書館などを活用して教訓や経験を継承するとともに、自他の生命を守り抜く主体性を備え、 復興・発展を支える地域の担い手の育成 を推進する。
こころのサポートの充実	スクールカウンセラー等を教育事務所、学校等に適正に配置し、教育相談体制の充実を図った。「心とからだの健康観察」の実施と結果の活用により、「要サポート」の児童生徒を把握し早期支援に繋げた。 不登校等支援を要する児童生徒は増加傾向 であり、より一層の支援が必要。	スクールカウンセラー等の配置、「心とからだの健康観察」の実施、教員研修の3点 を柱として、幼児児童生徒のこころのサポートに引き続き取り組む。
いじめ問題対策	「いじめの現在の状況」調査を実施し、結果を踏まえたいじめ防止等の取組の充実を学校等に働きかけた。いじめ問題等の初期対応を適切に行うため、「 いじめ対応・不登校支援等アドバイザー 」を県教委に配置し、学校支援に取り組んだ。いじめが重大事態に発展するケースがあり、適切な対処に向けた研修等の充実が必要。	いじめ問題への組織的かつ適切な対処 、自殺予防、関係機関との連携、児童生徒による取組の推進等、いじめ問題への対応に係る教員研修の充実や「いじめ問題解決支援チーム」の派遣等に取り組む。
県立高校入試制度の変更	令和7年度以降の県立高校入試の実施方法について周知し、令和7年度入試の円滑に実施に向けて、取り組んだ。	引き続き、県立高校入試の円滑な実施に向けて取り組んでいく。
就学前教育の充実	「 いわて就学前教育振興プログラム 」に基づき、いわて幼児教育センターの研修、県幼児教育専門員による訪問支援、県指定研究事業・幼児教育センター通信等による情報発信を行い、就学前教育の質の向上、幼保小の円滑な接続に取り組んだ。 市町村幼児教育アドバイザーの配置の一層の促進 を図る。	学びの連続性に配慮した就学前教育の充実を図るため、市町村幼児教育アドバイザーの配置促進に係る 岩手県幼児教育アドバイザー認定制度の創設 に向けた検討を進める。 幼保小接続に係る研修会等を通じて、各地域における 幼保小の架け橋期のカリキュラムの作成・実施 を推進する。

主要施策の令和6年度実施状況及び令和7年度の方向性

公所名

保健体育課

項 目	令和6年度実施状況 (成果と課題)	令和7年度の方向性等
<p>・児童生徒の健康の保持・増進に向けた対策の充実</p>	<p>【成果】 60 プラスプロジェクトに係る「優良実践校表彰及び実践交流会」の実施を通し、各学校の実践を価値づけ、顕彰を進めている。特に小学校を中心に実践が広まっている。</p> <p>【課題】 小学校以外の校種や家庭での取組の拡大が課題であることから、更なる周知や情報交流の工夫が必要である。また、ICTを活用して児童一人ひとりが自らの健康管理を行っていくための方法についての調査や検討が必要である。</p>	<p>→ 指導主事による小学校訪問の成果を生かし、中学校へと拡大し、各校において全職員の共通認識のもと、それぞれの習慣に係る担当者の連携により児童生徒への指導の充実につなげる。</p> <p>また、各校においてICTの活用によって得られたデータの分析に基づいた効果的な取組が行われるよう支援していく。</p>
<p>・適切な部活動体制の推進</p>	<p>【成果】 生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動を導入している学校が7割を超え、今後も増加が見込まれる。</p> <p>【課題】 学習指導要領解説の一部改訂より示された趣旨を周知し、理解促進を図る必要がある。</p>	<p>→ 生徒の自主的・自発的な参加による部活動を推進するため、各種事業において、一部改定された学習指導要領解説の趣旨及び「岩手県における学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する方針」等の周知を図ると共に、関係部室課と連携を深め、一体となった取組を推進する。</p>
<p>・安全でより良い教育環境の整備</p>	<p>【成果】・学校施設等の安全点検がほぼ全ての学校で実施されている。また、通学路の見守り活動についても、小中連携による実施が進んでいる。</p> <p>・自転車乗用中のヘルメット着用を自転車通学の要件とする県立学校が増加した。</p> <p>【課題】・通学時の安全確保に向け、「ながら見守り」等による見守り活動の充実を図る必要がある。</p> <p>・自転車乗用中のヘルメット着用等の取組の推進を図る必要がある。</p>	<p>→ 事故等の未然防止に向け、安全教委育と安全管理の取組を充実させる。また、関係機関との更なる連携により、組織的な取組の推進を図る。</p>

主要施策の令和6年度実施状況及び令和7年度の方向性

公所名 生涯学習推進センター

項 目	令和6年度実施状況 (○成果と●課題)	令和7年度の方向性等
1 学習情報提供・学習相談	<p>○生涯学習情報提供システム(Web ページ)「まなびネットいわて」の充実、「X」(旧 Twitter)での情報発信に努めた。</p> <p>○情報誌、メールマガジン2種を定期的に発行できた。</p> <p>○子育て電話相談・メール相談の丁寧な回答に努めた。</p> <p>●更なる利便性と有益な情報発信とより丁寧な相談対応。</p>	<p>1 生涯学習情報提供システム(Web ページ)「まなびネットいわて」等による生涯学習社会教育の情報提供 【生涯学習情報提供システム(Web ページ)「まなびネットいわて」の運用とその充実】</p> <p>2 生涯学習情報等の情報提供 【生涯学習情報誌年4回、生涯学習メルマガ月2回、子育てメルマガ月4回の発行】</p> <p>3 相談対応の充実 【子育て電話相談・メール相談、生涯学習社会教育電話相談(「マナビコール」)の実施】</p>
2 調査・研究の推進	<p>○「SDGs(持続可能な開発目標)の実現に向けた社会教育の役割と課題」と「博物館等施設のもつ地域における社会教育的役割とは何か」について今年度の生涯学習推進研究発表会で明らかになったことを発表する。</p> <p>●時代に即した各種調査実施と内容の検討。</p>	<p>1 市町村等の生涯学習社会教育推進のための現代的課題や地域課題に対応した調査・研究の推進</p> <p>2 各種調査の実施と分析 【生涯学習推進体制調査、社会教育基本調査、「二十歳のつどい」等に関する調査】</p>
3 指導者の養成・研修の充実	<p>○市町村生涯学習・社会教育関係職員のみならず、家庭教育関係者、学校教育関係者等の多様なニーズに合わせた研修を企画し、内容の充実に努めた。</p> <p>●指導者・ボランティア登録者の加入促進と活動機会の提供。</p>	<p>1 市町村の生涯学習・社会教育職員を対象とした資質向上にかかる研修の推進</p> <p>2 ボランティア活動者、有志指導者等を対象とした県民の多様なニーズに対応した研修の推進</p> <p>3 その他の研修等への対応 【生涯学習・社会教育に関する支援(講師派遣等)、資格認定研修対応、県生涯学習推進研究発表会 等】</p>

主要施策の令和6年度実施状況及び令和7年度の方向性

公所名 岩手県立図書館

項目	令和6年度実施状況 (成果と課題) ※ ▲：課題	令和7年度の方向性等
1 図書館資料の収集、整理、保存及び活用	<p>1 限られた予算を図書館資料収集方針及び選定基準に沿った収集に充てるとともに、各種事業や広報等を通じて利用の促進に努めた。 【R5来館者数 353,891人（都道府県立第15位、東北第1位）】</p> <p>▲ 来館者数の増に向けて、利用者の期待に応えられる資料の収集や企画展示の充実等に努める必要がある。</p> <p>▲ 電子図書館や読書バリアフリーへの対応を進める必要がある。</p>	<p>1 図書館資料の選定・収集 引き続き、望ましい蔵書の構築に向けた収集方針及び選定基準に基づき図書館資料を収集し、県民のニーズに対応したサービスを提供</p> <p>① 図書館資料を活用した企画展示、読書週間（年3回）の実施 ② 郷土関係を中心とした企画展の実施（年間5回以上） ③ 公衆送信サービスへの対応や電子図書館としての充実等の検討 ④ 来年度新たに、読書バリアフリーサービスに関する利用案内の作成・周知</p>
2 学習機会の提供と読書活動の奨励	<p>2 レファレンスにより利用者の多様な調べものを支援したほか、震災・防災の学び合スペース「I-ルーム」を拠点に復興教育や探究的な学びの支援等を実施した。 【R5レファレンス件数18,302件（都道府県立第13位、東北第3位）】 【R6「I-ルーム」実績】</p> <p>① 探究学習等支援：花巻市立湯口中学校、洋野町立大野中学校、県立伊保内高校、県立大槌高校、岩手大学等 ② I-セミナー：フェーズフリー講座、災害救助犬実演、おうちの危険を見つけよう／日赤講演、紙ぶるる体験等 ③ テーマ展示等：東日本大震災津波伝承館／連携企画展示、岩手日報／いわてワンプロパネル展、土砂災害写真パネル展等 ④ いわて防災復興研究会と連携した調査研究の実施</p> <p>▲ 少子化、超高齢社会等の今日的課題に対応するため、地域を支える情報拠点化や、学校との連携による「I-ルーム」を活用した探究的な学び等の支援など、図書館機能の更なる充実を図る必要がある。</p>	<p>2 「I-ルーム」による復興教育や探究的な学びの支援等</p> <p>① いわての復興教育モデル校等を中心に、各学校や児童・生徒への「いわての復興教育」や探究的な学びを支援 ② I-ルームにおいて、東日本大震災津波伝承館や本庁各室課、関係機関・団体と連携したテーマ展示を実施 ③ いわて防災復興研究会と連携した調査研究の継続</p> <p>① 震災復興や本県の今日的な課題に対応した講演会やワークショップ等（I-セミナー）の企画・開催 ② 「I-ルーム」の支援メニュー等の更なる周知 ③ いわての復興教育モデル校へのアプローチ ④ 様々な課題に対応したセット貸出や活用方法の提案 ⑤ 県内外への取組状況の発信</p>
3 市町村支援及び連携	<p>3 市町村立図書館等を対象に研修（2研修3回）を実施し、職員の知識や技能の向上を支援した。 また、市町村立図書館訪問を実施したほか、今年度初めて市町村立図書館等同士の情報交換会を実施した。 【R6訪問24館、情報交換会1回（県内12館参加）】</p>	<p>3 市町村立図書館等職員の資質向上</p> <p>○ 体系的な研修実施による市町村立図書館職員の資質向上 ○ 市町村立図書館等訪問（被災図書館は毎年度訪問）による運営状況やニーズ等の把握、必要に応じた助言等 ○ 県内優良事例図書館での情報交換会の開催など、市町村立図書館等同士の情報交換会の拡充（県内2か所）</p>
4 能登半島地震支援	<p>4 石川県輪島市等被災教育委員会への支援 ○ 本県の復興の取組や防災等に関する講演、意見交換等</p>	<p>4 石川県輪島市等被災教育委員会への支援 ○ 被災地のニーズに合わせた支援を予定</p>

主要施策の令和6年度実施状況及び令和7年度の方角性

公所名 岩手県立博物館

項 目	令和6年度実施状況 (成果と課題)	令和7年度の方角性等
1 調査研究活動と効果的な資料収集活動の推進	<p>(1) 今年度のテーマに基づく調査研究について、文化庁助成事業も活用して計画的に行うとともに、研究報告書、企画展図録等の発行、館内外における各種講座、イベントの開催等を通じて、成果を幅広く公表した。</p> <p>(2) 寄贈資料の受入れ及びレプリカ等の資料製作を通じてコレクションの充実につとめるとともに、資料の適切な展示・保管環境を維持するための館内のモニタリング、機器修繕等を行った。</p> <p>(3) 収蔵スペースの不足や施設設備の老朽化により、資料の適切な保管環境の確保が難しい状況が続いている。</p>	<p>(1) 館活動の根幹である調査研究の充実及び調査研究成果の幅広い公表の取組を継続する。</p> <p>(2) 多彩な資料の受入れや製作とともに、資料の適切な保管環境を確保する取組を継続する。</p> <p>(3) 収蔵スペースの確保のための資料配置や展示方法の工夫等とともに、博物館として資料の適切な保管のために必要とする施設改修等の内容についても随時見直しを行う。</p>
2 利用者に親しまれる常設展示や魅力ある展覧会の開催	<p>(1) 季節や年中行事に合わせた常設展示の展示替え、話題性のある資料等のトピック展並びにテーマ展2回及び企画展1回を行い、いずれも好評を得た。(来館者アンケートにおける「満足」の割合：テーマ展①95%、同②99%)</p> <p>(2) 各部門の調査研究の成果をより展示活動に反映させるとともに、多種多様な県民のニーズに対応した内容とする必要がある。</p>	<p>(1) テーマ展等の開催、常設展示の展示替え等を計画的に行う。 【令和7年度のテーマ展・企画展について】 年5回程度を予定</p> <p>(2) 来館者アンケート、出前講座やSNS等により県民のニーズを把握する取組を継続し、展示活動に生かす。</p>
3 学校教育と博物館との連携強化など教育普及活動の充実	<p>(1) 学校への出前講座や「教員のための博物館の日」のほか各種講座、ミュージアムシアター等を実施し、いずれも参加者から好評を得た。</p> <p>(2) 更なる利用を促進するため、学習ニーズを踏まえた事業内容の検討と効果的な情報発信が必要である。</p>	<p>(1) 令和6年12月までに実施した事業において、全体として100%近い参加者から「満足」の評価を得たことから、今年度の取組を継続する。</p> <p>(2) アンケート結果や今年度の事業で得たノウハウ等を生かし、内容のブラッシュアップと情報発信の充実を図る。</p>
4 被災文化財の救援及び保存・管理体制の構築	<p>(1) 陸前高田市で被災した博物館資料の修復・安定化処理を実施した。また、能登半島地震に係る文化財レスキュー事業の救援隊員として、職員を派遣した。</p> <p>(2) 未だ多くの被災資料が残る陸前高田市に対して支援の継続が必要である。また、全国各地で頻発する災害についても被災文化財の救援等の支援が求められる。</p>	<p>(1) 令和7年度に陸前高田市から委託される資料修復・安定化処理について、計画的に実施する。</p> <p>(2) 同市以外における被災文化財についても、可能な限り救援等の支援に取り組む。</p>

主要施策の令和6年度実施状況及び令和7年度の方向性

公所名 岩手県立美術館

項目	令和6年度実施状況 (成果と課題)	令和7年度の方向性等
1 県民の共通財産としての将来への継承	<p>〔成果〕 収蔵美術品によるコレクション展や他館等との連携による企画展を開催し、県民に優れた美術品の鑑賞機会を提供したほか、各種講座や体験教室等を通じて、芸術文化への理解と関心を高めることに寄与している。</p> <p>〔課題〕 企画展の開催については、広く訴求力のある企画展と、県立美術館ならではの県人作家等に係る自主企画展をバランスよく組み立てる必要がある。</p>	<p>○少なくとも年間1～2本程度、収益性のある企画展開催できるよう、企画運営会社等と調整しその実現を図る。 (年5回程度を予定)</p>
2 調査・研究活動等の推進による本県評価の向上	<p>〔成果〕 美術作品収集選定や企画展等の開催に当たっての、作家及び作品の調査等を通じ、郷土出身作家等に関する美術作品及び美術史に関する研究の成果が蓄積されている。</p> <p>R6年度美術品取得(予定) 55点(購入8、寄贈47)</p> <p>〔課題〕 調査・研究の成果について、コレクション展展示や自主企画展の開催を通じて、わかりやすく県民に還元し県民の理解と関心を醸成していくことにより、県民財産の価値向上に貢献していく必要がある。</p> <p>〈実施例1〉 R6 特別展示「揺らぐ体空」菅木志雄 〔会期：10/3～11/24〕</p> <p>〈実施例2〉 コレクション展第3・4期「救出された絵画たち—陸前高田へ、まもなく帰郷(前・後編)—」</p>	<p>○コレクション展では、様々な切り口で作品の魅力を伝え、県民の理解を深めていくよう作品展示し紹介していく。(年4回程度を予定)</p>
3 県民が等しく鑑賞・参加・創造できる環境の整備	<p>〔成果〕 これまでのアウトリーチ事業のうち、出前授業はリモート授業実施に移行(希望があれば出向くことも継続)したことにより、参加実績が大幅に増加。</p> <p>R5年度：5校・236人、R6年度：18校・746人</p> <p>〔課題〕 研修講師派遣は、直接出向いて対応することに意義があり、そのため従前のおりの対応継続。</p>	<p>○美術館を訪れることが困難な学校、社会教育施設等を対象に、県内全域でアウトリーチを継続実施する中で、ICTの利用を推進しつつ、本物の作品を鑑賞する機会を重視し、普及に努める。</p> <p>【令和7年度教育普及事業概要案】 教育連携・アウトリーチ事業</p> <p>① 出前授業⇒ICT活用のリモート授業を中心として実施 (並行して出張依頼にも対応)</p> <p>② 研修講師派遣⇒依頼都度対応</p>

主要施策の令和6年度実施状況及び令和7年度の方向性

公所名 岩手県立県南青少年の家

項目	令和6年度実施状況 (成果と課題)	令和7年度の方向性等
<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育と学校教育、地域・関係機関との連携 ・生涯学習支援を意識した事業の組立とプログラム開発 ・参加者の安全・安心の確保 	<p>(成果) 利用団体の研修目的達成のため、指導員がプログラム等相談に丁寧に対応し、利用者の満足度につなげることができた。また、主催事業等では県南広域振興局や奥州地方森林組合などとのタイアップをし、独自ではできない魅力的な活動を盛り込むことができた。</p> <p>(課題) 外部団体や諸機関へのアウトリーチや連携による魅力的な事業やプログラムの創出。</p> <p>(成果) 引き継がれてきた事業の中で良いものは残し、且つ新しい発想を取り入れた。特に、小中学生に対してのロープワーク講座やファイヤースターターでの火起こし体験、親子事業での防災食づくりなど、利用者がその後にも取り組める内容を意識して事業を組み立てた。</p> <p>(課題) 町の社会福祉事業とのタイアップで事業を行う計画が動き始めたが、軌道に乗せられるよう、また新たなリーダーになっていただけるよう、利用促進の動きは他の施設や団体も含めて継続していく必要がある。</p> <p>(成果) 安全点検や危険個所の情報交換がタイムリーに行われたため、今年度大きな事故や怪我はなかった。また、蜂対策、ツタウルシの刈り取りなど、事故の未然防止に努めることができた。</p> <p>(課題) 蜂の巣の情報等など、実際に来所した利用者から情報をもらって対策を行った例もあったため、より安全面には配慮が必要である。また、施設の老朽化が進んでいることもあり、より高い危機管理意識を持って施設を管理しなくてはならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課程や課外活動などで利用できる社会教育施設の可能性を広げ、利用できる土台作りを行う。(教科の授業や児童会・生徒会での利用など) ・周囲の外部団体や諸機関とも連携し、より魅力のあるプログラムや事業を開発する。 ・あらゆる世代のニーズや生涯にわたる学習を支える施設を目指し、魅力的な事業の開発、そして利用者の拡大を図る。 ・支援を必要としている方々にも安心して利用していただける施設を目指す。(学校不適應の児童生徒や経済的困難な家庭の児童生徒、高齢者等) ・老朽化している施設点検の他、熊や蜂、危険動植物について、引き続き安全点検や情報交換を行い、迅速な対応で、事故のない施設づくりを継続する。 ・暑さ対策、熱中症対策など、できるだけ事前対策を行い、緊急時にも速やかに対応できる職員の意識作りを徹底する。

主要施策の令和6年度実施状況及び令和7年度の方向性

公所名 陸中海岸青少年の家

項 目	令和6年度実施状況（成果と課題）	令和7年度の方向性等
学校教育と社会教育、生涯学習の連携と協働	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過密となる6月前後期間において、学校間の利用調整を適切に支援することで効率の良い宿泊体験学習を運営することができた。また、指導面においても安全へ配慮しながら指導することができた。 ・ 宮古教育事務所及び市町村と連携することで、各市町村にあるニーズを把握し利用へつなげたり、公民館等の主催事業を協働で対応したりすることができた。また山田町B&G海洋センターの協力により、特色ある当所主催事業を展開することができた。 ・ 次年度の主催事業の内容及び学校の利用において、調整及び工夫が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に配慮した指導が大前提であることから、引き続き重要項目とすること。 ・ 関係部局との連携及び協働は、当所の様々な事業展開に必須であることから、ゆるやかなネットワークを保ちつつ、今後も WinWin の関係を築いていくこと。 ・ 主催事業数の精選及び団体自身による自主活動の奨励
生涯スポーツの推進と健全で自立した青少年の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受付及び申し込みの際、団体担当者とコミュニケーションをとりニーズと実態に応じたニュースポーツ体験指導ができた。 ・ 山田町B&G海洋センターの協力により、沿岸部にある青少年教育施設として特色ある主催事業を実施することができた。 ・ 荒天時等への対応が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者サークル及び幼児教育施設の利用時には、実態及びニーズの把握を丁寧に行うことを継続すること。 ・ 関係部局との連携を密にし、今後も地の利を生かした特色ある事業の展開をすること。
地域の自然環境を活用した体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沢登り、いかだ及び山中ウォークラリー等、三陸ジオパークの特長を生かしたプログラムを準備することで、沿岸部はもちろん、内陸部の子どもたちに貴重な体験を提供することができている。 ・ 荒天時には提供が全くできなくなってしまうこと、熊の出没により安全なプログラムの実施に影響が出てしまうことが課題。 ・ ヘルメット及びライフジャケット等の安全使用期限が超過しないように適切に管理すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特色のあるプログラムの指導を日常的に見直し・改善を図ること。 ・ 荒天時対応プログラムを見直し、魅力的な内容に改善すること。

主要施策の令和6年度実施状況及び令和7年度の方向性

公所名 岩手県立県北青少年の家

項 目	令和6年度実施状況（成果と課題）	令和7年度の方向性等
<p>多様な学びのニーズに応じた活動拠点の充実</p> <p>家庭教育支援及び保護者間の交流、子育てに関する学習機会の提供</p> <p>豊かな自然環境、施設の特性を生かした豊かな体験活動の充実</p>	<p>(成果)指導者対象のセミナーで、体験活動を充実させるためのねらいの重視や活動の精選について強調するとともに、ゆとりのあるプログラムの中で児童生徒が主体的に活動できるよう内容や日程の相談を丁寧に行った。指導者の事後アンケートではねらいの達成度が高く評価された。</p> <p>(課題)不登校対策について、チラシ等を用いて学校、市町村及び関係機関に働きかけたが、利用が無く、居場所づくりにつながらなかった。</p> <p>(成果)親子対象の体験活動事業を増やし、敷居を低くして親子体験、家族交流の機会を提供した。また、事業の中で、体験活動と子育てについての保護者対象のワークショップを行い、子どもと過ごす時間を見直すとともに、悩みを軽減し、メディアを離れて積極的に親子で過ごすことの大切さを実感させることができた。</p> <p>(課題)子どもの体験活動の充実と併せて、親の家庭教育、子育てに関する学びの場をさらに拡充し提供していく。</p> <p>(成果)すき間時間に楽しめる自然体験の充実、プラネタリウムの学習投影、ツリークライミングやスポーツクライミングの新設、イベントと併せたスケートやカーリングの一層の普及など、これまで以上に施設の特性を生かし、利用者に様々なプログラムを紹介し、提供することができた。</p> <p>(課題)施設設備の老朽化等に予算が間に合わず、自力の対応に追われることが多い。点検やメンテナンスを適切に行い、計画的に修繕や更新を行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が活動や学びのねらいを達成できるよう、打合せを綿密に行い、利用者の新たなニーズを生み出すよう対応していく。また、市町村や関係機関との連携を深め、幅広い年齢層の学習機会を提供し対応していく。 ・今あるニーズに応えるだけでなく、「ニーズは作るもの」という考え方で、今日的な教育課題にあわせた活動プログラムや利用の仕方を工夫して周知していく。 ・気軽に楽しめる親子事業の中に、家庭教育や子育て、親育ちの楽しい学びを盛り込むとともに、親子間の交流を促進し、体験活動とコミュニティのよさや大切さを親子で感じる事業を展開していく。 ・施設の特性をさらに生かすプログラムや運営を検討するとともに、指導にあたる職員、施設の管理充実を図る職員に研修の機会を設けて、より良い施設運営に資する。 ・施設設備の不具合により、利用者に迷惑をかけたり、事業や活動を縮小してしまったりすることがないように、積極的、計画的に施設管理を行う。

主要施策の令和6年度実施状況及び令和7年度の方向性

公所名 岩手県立野外活動センター

項 目	令和6年度実施状況 (成果(○)と課題(●))	令和7年度の方向性等
(1) 施設利用の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○管内校長会議において、利用促進を行うことができた。 ○利用促進やニーズ把握等を目的として、県南・沿岸南部地区や隣接する宮城県の高専への個別訪問を行うことができた。 ○利用者アンケートの継続的な分析と共有化が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○利用団体の円滑な受入と利便性の向上 ○利用者アンケートの分析等に基づいたニーズ把握の精度向上 ○広報活動の拡充(SNS等の活用促進)
(2) 施設環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ○施設及び設備等に係る安全点検を継続的に実施できた。 ○各委託業者等との連絡調整等を随時行いながら、重大事故等の未然防止に努めることができた。 ●暑さ対策はおこなったが、今夏もほぼ全ての利用団体からエアコンの設置を強く求められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設設備に係る継続的・適時的な安全管理の徹底 ○敷地内全般における環境の整備(草刈、除草、害虫駆除等) ○委託業者との円滑な連携の推進(食堂、清掃、警備等) ○施設管理の実態整理及び生涯学習文化財課との連携促進
(3) 主催事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ニーズ把握やアンケート分析を通して、対象年齢層や活動内容等を工夫・改善したことで、多くの事業で定員を上回る参加希望者を得ている。 ○陸前高田市及び関係スポーツ団体、東日本大震災津波伝承館等との連携・協働を図りながら、各事業の内容深化等に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然体験活動事業 (「ドラマチック海遊塾」「野活キッズ」等) ○家庭教育関連事業 (「ファミリーキャンプ」「通学宿泊合宿」等) ○指導者養成事業(「ボランティアスタッフ養成講座」等) ○復興防災事業 (「震災・防災学習現地研修会」「親子防災教室」等) ○スポーツ推進事業(「スポーツ教室」「SUP体験会」等)
(4) 研修プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○新規プログラム「ロープワーク活動」や「あわびキラキラマグネット」を提供することができた。 ○「室内用モルック」等、荒天時プログラムの開発に継続して取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然体験活動 (「野外炊事」「テント泊」「いかだ体験」等) ○スポーツ活動 (「テニス」「バレーボール」「ニュースポーツ」等) ○復興・防災教育 (「防災ウォッチング」「避難所運営ゲーム」等)